

青森労災病院 第5回がん診療院内研修会

緩和ケアチーム アドバンス・ケア・プランニングの 取り組みについて



R4年12月9日 (FRI) 17:00~18:00

緩和ケア認定看護師 宮野 紀子

ACP（人生会議）

万が一の時に備えて、あなたの大切にしていることや望み、どのような医療やケアを望んでいるかについて、自分自身で考えたり、あなたの信頼する人たちと話し合ったりすることを「アドバンス・ケア・プランニングーこれからの治療やケアに関する話し合い」といいます。

これらの話し合いは、もしもの時に、あなたの信頼する人があなたの代わりに治療やケアについて難しい判断をする場合に重要な助けになります。

意思決定場面

診断され
病名・病状
を説明

転移・再発
治療の限界

家族への
看取りの説明

療養の場の選択

医療・治療の説明
治療の選択

治療の変更・
中断・中止

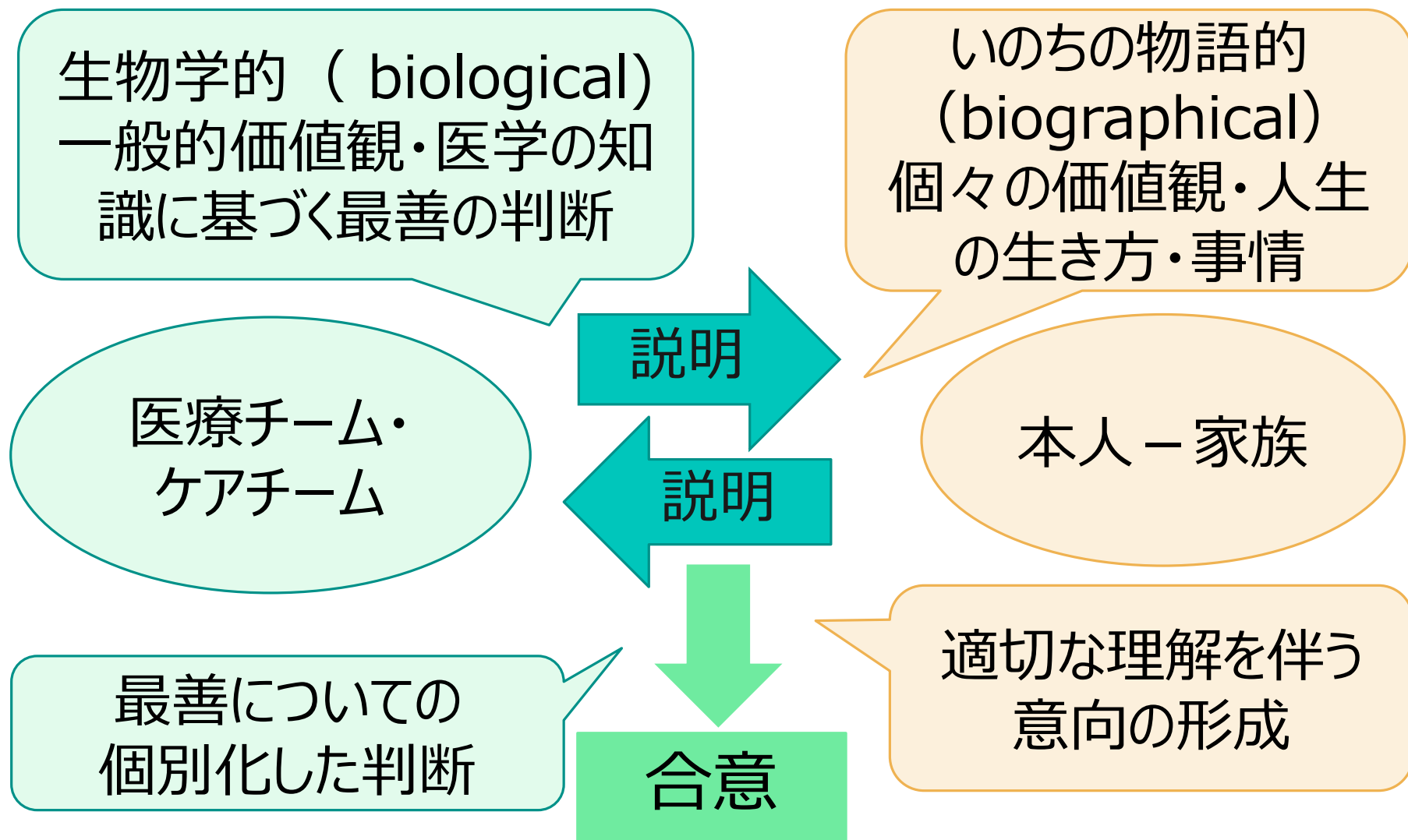


意思決定のプロセス

「ともに考える」
プロセスとしての意思決定

情報共有 - 合意モデル

意思決定のプロセス



「生命」と「いのち」 2つのLifeを生きている

- ◆ 生物学的 (biological) 生命
人間一般に共通する
他者から独立した生命：死ぬとなくなる
- ◆ 物語られる (biographical) いのち
一人ひとりが異なる固有のもの
相互に浸透し合ういのち
：死んでも心の中で生きている

医療の目的の変化

QOLを真ん中に考える。

その人にとっての生活／人生の質がどうか。

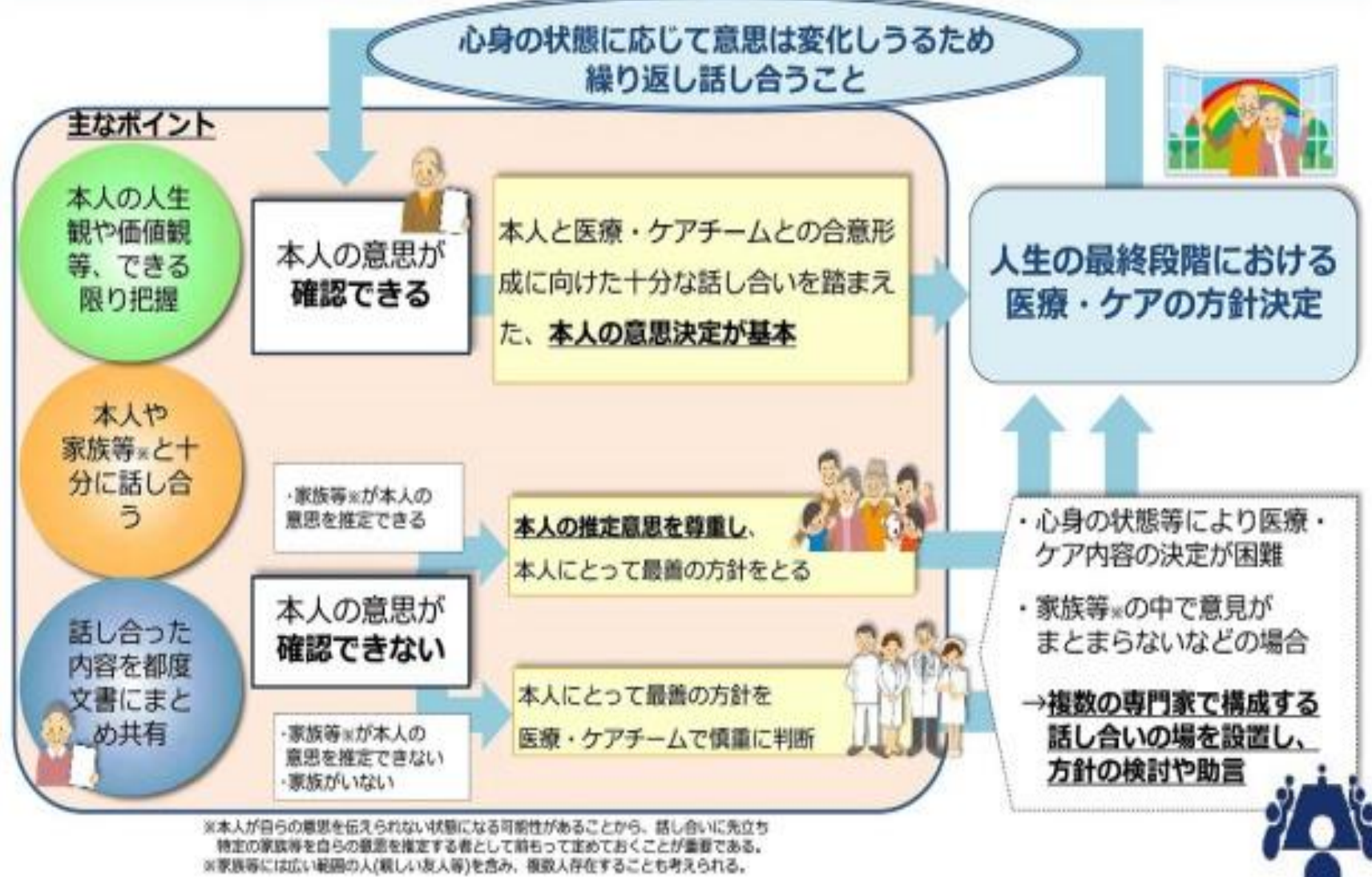
何を目標として、医療を行うべきか。



「人生の最終段階における医療・ケアのプロセスに関するガイドライン」 厚労省

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」 意思決定支援や方針決定の流れ（イメージ図）（平成30年版）

人生の最終段階における医療・ケアについては、医師等の医療従事者から本人・家族等へ適切な情報の提供と説明がなされた上で、介護従事者を含む多専門職種からなる医療・ケアチームと十分な話し合いを行い、本人の意思決定を基本として進めること。



ポイント

- ◆ 医療・ケアチームで取り組む
- ◆ 本人の意思確認が大切
- ◆ 本人の意思確認が出来ない場合には、
家族等が十分な情報を得たうえで、
本人が何を望むか、本人にとって何が最善かを
医療・ケアチームとの間で話し合う

「本人にとって最善の決断」を行う上で 医療者が患者に提供すべきこと

- ◆病状
- ◆医療・ケアを受けないとどうなるのか？
- ◆医療・ケアの選択肢はなにか？
- ◆それぞれについて、医療・ケアを受けることで
本人が得る利益はなにか？想定される不利益は
何か？
- ◆専門家としての推奨は何か？
- ◆想定される不利益を最小限にするため、医療者
等が準備していること。

医療者は 患者本人のことに対して素人

- ◆患者さん自身の専門家である本人から、最善の選択にかなうための情報を教えてもらう必要がある。
- ◆自分は患者さんについて何もわかっていないというスタンスで関わる。

合意形成にあたり 医療・ケアチームが知るべき本人のこと

- ◆ どうなりたいと考えているのか？
- ◆ 医療・ケアに何を期待しているのか？
- ◆ 最も優先してほしいことは何か？
- ◆ 病気や医療が本人の生活に与える影響
- ◆ 本人にとって受け入れがたいことや辛いことはなにか？
- ◆ 推奨された医療・ケア計画を現実的に守っていくことができそうか？
- ◆ 誰と相談したいか？ 誰に話してほしくないか？

アドバンス・ケア・プランニングについての 緩和ケアチームの取り組み

◆ アドバンス・ケア・プランニングについて学ぶ

人生の最終段階における医療体制整備事業

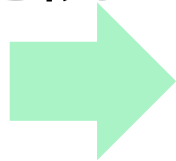
「患者の意向を尊重した意思決定のための研修会」

E-FIELD研修受講

緩和ケアチームメンバー4名

(医師1名、認定看護師2名 MSW1名)

◆ 他院の取り組み等の情報収集



当院に不足していることを抽出

当院の課題

- ◆ 患者の病識や、意向について確認の不足
- ◆ 病状説明以後の不安等への介入が見えにくい
- ◆ 多職種で情報の共有がされているのかわからない
- ◆ 病状説明内容、病識、意向についての情報が、カルテから探しにくい。
- ◆ ACPの認識がうすい

など

苦痛への早期介入

スタッフへの啓蒙・教育

患者家族へ啓蒙

システム上の問題

スタッフへの啓蒙・教育

- ◆「アドバンス・ケア・プランニングとは？」 e-ラーニング受講
神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科
緩和ケアチーム長 木澤 義之先生
- ◆人生の最終段階におけるガイドラインについての全体研修
- ◆緩和ケアリンクナース会での研修
意思決定支援研修 コミュニケーション研修
- ◆E-FIELD研修受講声かけ

※その他 地域連携セミナー、院内認定看護師会研修等で
「ACP研修」「あなたの大切なこと、私の大切なこと」
もしバナゲームを使用した研修

病状理解・苦痛への早期介入のための 取り組み

◆病状説明の充実のための取り組み

- ・病状説明用紙の改訂・活用を促す。
- ・病状説明後、ご本人の受け止めについて確認をする
価値観に関することについて記録を促す。

◆苦痛のスクリーニングの推進

陽性者への早期介入の促進

◆専門職への連携のしやすさの改善

がん者指導管理料の運用要項を作成し、不安等にすみやかに専門家が介入が出来る仕組みを整えた。

病状理解・苦痛への早期介入のための 取り組み

◆電子カルテの工夫

病状説明内容や、ご本人の受け止め、価値観に関する
ことについてカルテ上からの情報をとりやすいよう
に工夫

→ 表題を病状説明/ACPへ変更して記録をすること
で、諸記録歴で時系列に閲覧可能とする。

◆マニュアル作成

コロナ禍での患者さんご家族、医療スタッフとの コミュニケーションについて

- ◆ 面会禁止のなか、顔をみて話せる環境の整備が必要
- ◆ 面談の機会の設定
- ◆ 昨年から開始した、オンライン面会の活用



患者・家族への啓蒙

◆リーフレット作成

アドバンス・ケア・プランニングとは？

◆私の気持ちの確認用紙作成



リーフレットを設置したり、がん療養冊子に挟み配布していく。

ご清聴ありがとうございました。

